

1 研究テーマ

自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に活動する生徒の育成を目指して
～考える力を身につける指導法の工夫～

2 テーマ設定の理由

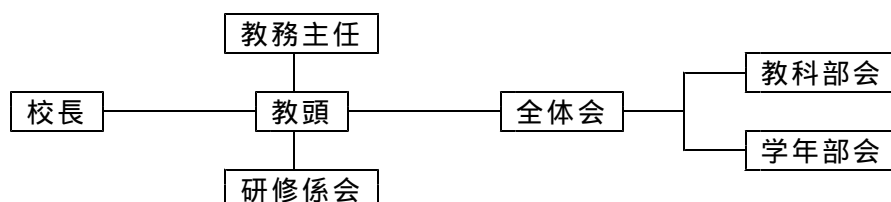
本校が取り組むべき課題のひとつとして基礎学力の定着があげられる。基礎・基本定着度調査や標準学力検査の結果を見ると、基礎学力が十分に定着している生徒とそうでない生徒に二極化している様子が見られる。定着の十分でない生徒に対しては、現時点でも各教科ごとや、学年ごとで取り組みはなされている。しかし、ここですべての教科で今一度指導法を見直すとともに、それぞれが共通の実践をすることでより高い効果を得られるのではないかと考えた。

基礎学力向上には「考える力」を養うことが必要であるという視点から、各教科で身につけさせたい「考える力」について検討し、その指導法について研修をおこなうことで基礎学力の向上につなげたいと考え、本テーマを設定した。

3 取り組みについて

- ・ 教科部会・・・「考える力」の定義、各教科による取り組みの検討・実践
- ・ 研修部・・・共通実践事項の検討・実践、研修の企画・運営
- ・ 各教科による研究授業の実施 など

4 研究組織(平成19年度)



5 研究方法

(1) 研修部会

各種研修の企画・立案、推進に当たる。

研究授業における指導案検討や、授業研究の進行、外部講師の依頼など

(2) 全体会(全職員)

各研究班の報告、実践事項の検討・決定、用語の定義づけなど、研究をスムーズに進めるための共通理解の場とする。

必要に応じて時間を確保する。

(3) 教科部会

理論的、実践的研究の推進に当たる。

必要に応じて時間を確保する。

(4) 学年部会

共通実践化を図るための検討及び連絡調整の場とする。

6 研修内容

- ア 生徒指導
- イ 道徳教育
- ウ 保健指導
- エ 安全指導
- オ 諸検査分析
- カ 情報教育
- キ 人権同和教育
- ク 特別活動
- ケ 教科研究
- コ 個人研究

研修内容	時期	係	留意事項
ア 生徒指導	4月 12月	生活指導係	・気になる生徒について共通理解を図るとともに、職員全体として のよりよい関わり方を考える。
イ 道徳教育	1月	道徳	・より効果的な道徳教育の進め方について検討する。
ウ 保健指導	7月	保健指導係	・健康診断分析結果及び保健室来室等について共通理解を図り、支 援方法を研究する。 ・保健・安全面に関わる対応方法や処置についての実習をおこなう。
エ 安全指導	8月	安全指導係	・緊急時の連絡体制の確認や不審者への対応についての実習をおこ なる。
オ 諸検査分析	8月	諸検査係	・諸検査の意義と活用法についての理解を深めると共に、標準学力 検査の分析を行い、全職員が教育活動全体で指導できるよう認識 を深める。
カ 情報教育	8月	情報教育係	・授業に活用するためのコンピュータ機器操作研修 ・授業、校務に生かせる市販のソフトウェアの操作方法研修
キ 人権同和教育	1月	人権同和 教育係	・人権同和教育についての基本的な考え方についての認識を深める。
ク 特別活動	2月	特別活動係	・特別活動について事例を基に、より充実した取り組みの方向を探る。
ケ 教科研究	5月 6月 10月 12月	数学科 英語科 英語科 理科	・子供が主体的に活動する学習指導のあり方を探る。 ・教科における基礎学力定着を図るための指導法を研究する。 (研究授業による研修)
サ 進路指導	12月	進路指導係	・本年度の進路状況(校内・校外ともに)について共通理解を図る。
コ 個人研究	随時	個人・研修係	・個人テーマに基づいた研修の推進 ・個人研究テーマに基づいた研究授業、授業研究

7 研修計画

月	研修係	研修テーマ	研修担当者
4	研修計画作成 個人研究テーマ取りまとめ 4/24 研修準備 5/7 研修担当者と打合せ 講師派遣申請 指導案検討	4/24 研究の概要・生徒指導 研修計画について、個人研究テーマ依頼 生徒の共通理解事項確認、新入生情報・保健 室情報の交換	研修係 生活指導係
5	担当者との打合せ 研修資料準備	5/7 数学科 研究授業・授業研究	数学科 (清藤教諭)
6	6/25 研修担当者と打合せ 講師派遣申請 指導案検討 7/20 研修担当者と打合せ	6/25 英語科 研究授業・授業研究 テーマ研修 各教科における「考える力」についての共通 理解	英語科 (有島教諭)
7	8/1 研修担当者と打合せ、 講師派遣申請	7/20 保健指導 (健康診断の結果並びに、1学期の保健室来室 状況の共通理解。応急処置法の演習)	保健指導係
8	8/21 研修の資料分析を各担 任に依頼 8/21 研修担当者と打合せ 8/21 研修資料準備 8/31 研修担当者と打合せ、 資料準備、講師派遣申請	8/1 安全指導 緊急時の連絡体制の確認や不審者への対応に ついての実習 8/21 諸検査分析 諸検査の意義と活用法についての理解を深め る テーマ研修 「考える力を身につける指導法」について実践 事項の検討 8/31 情報教育 視聴覚機器の操作、サーバー管理、データ管 理などについて	安全指導係 諸検査係 情報教育係
9	10/2 研修担当者と打合せ、 講師派遣申請 指導案検討		
10		10/2 英語科 研究授業・授業研究	英語科 (今村教諭)
11	12/17 研修担当者と打合せ、 講師派遣申請 指導案検討 12/21 研修担当者と打合せ	テーマ研修 中間発表	
12	1/21 研修担当者と打合せ 講師派遣申請	12/17 理科 研究授業・授業研究 12/21 生徒指導・進路指導 2学期を通じての生徒指導上の情報交換 今年度の進路状況についての共通理解	理科 (上野教諭) 生活指導係 進路指導係
1	研修記録作成 2/25 研修担当者と打合せ、 講師派遣申請	テーマ研修 研修のまとめ 1/21 道德教育 研究授業・より効果的な道德教育の進め方に ついて検討) 1/28 人権・同和教育 人権同和教育についての基本的な考え方につ いての認識を深める	道德教育係 人権同和教育係
2	個人研究テーマ原稿回収 研修アンケート回収	2/25 特別活動・研修のまとめ 研究授業・特別活動について事例を基に、よ り充実した取り組みの方向を探る	特別支援教育係
3			

8 実践例(研究授業・小中連絡会)

[数学科研究授業]

1 単元 式の計算

～ 中略 ～

3 本時の実際

(1) 単元名 1章 『式の計算』

(2) 単元の目標

単項式・多項式，次数の意味を理解し，同類項を1つの項にまとめることができる。

多項式どうしの加法・減法について理解し，その計算ができる。

単項式どうしの乗法・除法について理解し，その計算ができる。

多項式と数の乗除およびやや複雑な式の計算ができる。

2つの文字に数を代入して式の値を求めたり，能率よく式の値を求めたりすることができる。

目的に応じて等式を変形したり，整数や図形の性質を文字式を用いて説明したりするなど，文字式を具体的な場面で適切に活用することができる。

(3) 単元の指導計画(全13時間)

節	項	時数	指導内容	用語・記号	
式の計算	1 文字式のしくみ	2	8	文字式について，単項式・多項式および式の次数の意味を理解する。	単項式，多項式 定数項，次数
	2 式の加法・減法	2		同類項の意味および式の中の同類項は1つにまとめられることを理解する。 多項式どうしの加法・減法の計算をする。	同類項
	3 式の乗法・除法	2		単項式どうしの乗法・除法，数と多項式の乗法・除法，乗除の混じった式の計算などを行う。	
	4 式の値	1		2つの文字に数を代入して式の値を求めたり，能率的に式の値を求めたりする。	
	確かめよう	1			
式の利用	1 等式の変形	1.5	4	2つ以上の文字を含んだ等式を，ある文字について解く。 等しい比を表す等式を変形し，外項の積と内項の積が等しいことを導く。	について解く，比の値
	2 文字式を利用した説明	2 本時 (1/2)		数量の関係を，文字式を用いて一般的に表す。 数や図形の性質が成り立つわけを，文字式を用いて説明する。	
	確かめよう	0.5			
1章のまとめと問題		1			

(4) 本時の実際

題材 『文字式を利用した説明』 (1/2)

本時の目標

- ・ 学習課題に意欲的に取り組むことができる。
- ・ 文字を用いることよさを理解することができる。
- ・ 数の性質を、文字式を用いて説明することができる。

展開

過程	時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点
導入	5	1 学習課題1に取り組む。 ・ 3の倍数になっている。 ・ 中央の数の3倍になっている。	個 全体	1 どんなことでもいいので、気付いたことを挙げさせる。
	5	2 発表をする。		2 連続する3つの整数は無限にあり、すべての場合について調べることは不可能であることを理解させる。
展開	2	3 学習課題2を確認する。	全体	3 発表の中から、和が3の倍数になることに焦点を当てる。
	8	4 3の倍数について確認する。	個	4 3の倍数は $3 \times (\text{整数})$ の形で表されることを理解させる。
	10	5 連続する3つの整数のうち、もっとも小さい整数を a として、3つの整数を $a, a+1, a+2$ 使って表す。	個	5 連続する3つの数の関係を理解させる。
	5	6 和を計算して、3の倍数になることを理解する。		6 課題に適するように、式の変形をさせ、いかなる場合にも当てはまる事を確認させる。
	10	7 学習課題3に取り組む。	全体	7 学習課題2の解き方を踏まえ、どのようにしたらよいかを考えさせ、自分なりの解答を書かせる。
	3	8 発表をする。		8 数名に発表させ、残りはプリントを回収して確認をする。
終末	2	9 本時のまとめを聞く。	個	・ 本時のまとめをする。

本時の評価

- ・ 学習課題に意欲的に取り組むことができたか。
- ・ 文字を用いることよさを理解することができたか。
- ・ 数の性質を、文字式を用いて説明することができたか。

【社会科研究授業】

1 単元 『 1 武士の台頭と鎌倉幕府 』（新しい社会歴史 東京書籍）

～ 中略 ～

6 本時の実際

(1) 主題 「2 武家政権の成立」

(2) 本時の目標

ア 武家政権が東国に生まれ、支配力を広げていった様子を、幕府と朝廷の関係などから理解しよう。

イ 将軍や執権と御家人の関係に注目して、武家政権の特色を理解しよう。

(3) 本時の学習計画 (2 / 4)

過程	主な学習活動	学習内容	時間	指導上の留意点
導 入	1 人物のパネルを見て、誰か考えて発表する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">武家政権は、どのような特色があるのだろうか。</div>	パネル1 ・源頼朝と伝えられる肖像画	3 2	1 意見を活発に発表できる雰囲気を作り、頼朝について知っていることを発表させる。 2 学習目標を、明瞭に読み上げる。
展	3 なぜ、源頼朝は平氏を倒そうとしたのか教科書・資料集を調べて考える。 (個) (グループ) ・高い官職を独占した ・朝廷の政治を思うままに動かし始めた ・貴族や寺社、地方武士の反感 4 源平の争乱について資料集で流れを調べる。(一斉) 5 屋島の戦い・壇ノ浦の戦いのVTRを視聴し、感想を発表する。 6 なぜ、頼朝は鎌倉に幕府を開いたのか資料を見て考える。 (個) (グループ) ・三方を山に囲まれ、南が海に面している ・切通 7 幕府のしくみと、義経をとらえることを口実に置いたものは何か 資料集で調べる。(個) ・侍所、政所、問注所 ・守護、地頭	資料1 教科書p52 ・本文 資料2 資料集p53 ・平氏政権 資料3 資料集p54 ・源平の争乱 資料4 ・VTR 資料5 教科書p52 ・現在の鎌倉 資料6 資料集p58 ・鎌倉幕府のしくみ	5 3 3 5 5	3 資料1・2から、平氏に対する反感や不満が高まっていたことを確認する。「平氏にあらずんば人にあらず」 4 平氏の赤旗、源氏の白旗に分かれて戦ったことを確認する。 5 VTRから、平家物語にもふれ義経が平氏を滅ぼしたことを確認する。 6 7つの切通により敵の侵入を防ぐ地形となっていることに気づかせる。 7 頼朝は征夷大將軍になり、中央のしくみを整え、地方では国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を置き支配力を広げたことを確認する。 8 土地を仲立ちにして、御恩と奉公の主従関係を結んだことを確認す

開	8 頼朝は、御家人とどのような関係を築いたか資料集を調べる。(個) ・主従関係 ・御恩と奉公	資料7 資料集p58 ・武家社会のしくみ	4	る。
	9 頼朝の死後、なぜ北条氏が実権をにぎったのか考える。(グループ) ・頼朝の妻政子の父 北条時政 ・執権政治	資料8 資料集p59 ・執権政治	5	9 北条時政が、将軍の力を弱めて執権の地位につき実権をにぎっていったことを理解させる。
	10 承久の乱で「北条政子の訴え」を読んで、幕府と朝廷の関係について考える。(グループ)	資料9 資料集p59 ・承久の乱	5	10 御家人に頼朝公の御恩を思い出させ、御家人を奮起させ後鳥羽上皇を倒したことを理解させる。
	11 承久の乱により、幕府の力はどのように変化したか考える。(個) ・六波羅探題を置き、朝廷と西国の武士を監視する ・地頭に東国の武士を任命し、幕府の支配力が一段と強まった	資料10 教科書p59 ・承久の乱とその後の動き	3	11 六波羅探題を置き、朝廷と西国の武士を監視し、承久の乱で没収した上皇側についた貴族や西国武士の領地を取り上げ、地頭に東国の武士を任命し、幕府の支配力が一段と強まったことを資料10理解させる。
まとめ	12 本時を振り返り、次時の予告を行う。		5	12 武家政権の成立の過程と特色を理解させる。

(5) 評価

- ア 武家政権が東国に生まれ、支配力を広げていった様子を、幕府と朝廷の関係などから理解できたか。
- イ 将軍や執権と御家人の関係に注目して、武家政権の特色を理解できたか。



9 成果と課題

成果としては各教科において“考える力”とは何かを見直したことで、いままでより更に意識して生徒が主体的に授業に参加し、自ら考える場面を増やそうと心がけることができた。具体的には下記の3点があげられる。

視聴覚機器を効果的に活用することで話し合いや、考える時間の確保できた。

生徒主体の学校行事や生徒会活動を推進できた。

アサーションや、構成的グループエンカウンターを積極的に導入した。

課題としては、それぞれの教科、学級で効果のある多くの取り組みがなされたのに、全体として取り組めたものが少なかったことがあげられる。今年度の取り組みを改めて振り返り、全体に還元できるものとそうでないものに分類し、3年間の流れの中で系統立てて整理していくことが今後の課題として必要である。